



1 プレゼンは段取り良く

6つの
グループ課題

- A「若年層に親近感を持ってもらうイベント」
- B「土日の宿泊客を増やすための魅力的なプラン」
- C「レストランの集客力の強化」
- D「広い会場を使用する宴会利用の増加策」
- E「県南地域への新たな移住者にホテルを知ってもらうための取り組み」
- F「ホテルの施設を活用した新規事業」



左から 市川一隆社長、学生、堀田誉コーディネータ

「地域経済論」(担当:宮田貞夫先生)では、『ホテルグランド東雲』の市川一隆社長から提示された6つのグループ課題に対し、学生が調査研究を進めてきました。7月4日(木)に解決案の発表会がありました。

「レストランの集客力の強化」の課題には、子供のランドセル購入を機会に、ホテルに家族が集い様々なイベントを巡る『ラン活』の提案がありました。また、「土日の宿泊客を増やすための魅力的なプラン」の課題には、便利な交通手段と注目される電動キックボードの、安全講習会や地域をめぐるツアーなどが提案されました。

学生の様々な提案に対し、市川一隆社長は、「すぐにも取り組めるような提案が多かった」と学生の健闘を讃えていました。また、宮田貞夫先生からは「プレゼンは段取り良く」とのアドバイスを頂きました。



発表する学生たち



発表する学生たち



講評する市川一隆社長(右側)

2 熱量と発想が大切!

Hotel Grand Shinonome

『ホテルグランド東雲』の市川一隆社長と、茨城県よろず支援拠点の堀田誉コーディネータから、学生に温かいエールを頂きました。



左から 市川一隆社長と堀田誉コーディネータ

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事> 日本経済新聞(2024年6月16日)

ロボと融合で加速期待

～AI進化のカギ「身体性」～

●高橋京汰さん(日立工高卒)

◇要約:生成AIは、人間の質問に対して続く確率が高い単語を並べているにすぎないが、インターネット上の大量の文書や画像、音声を学習している。人間が一生をかけても学べない程だ。生成AIに目と耳を搭載する。

◇感想:生成AIが、このまま進化を続けていけば、AIはデータと感覚が対応するようになり、人間らしい行動をとる日もそう遠くないと思った。AIに使われるIT技術者にはなりたくないと思った。

●富永誠也さん(太田第一高卒)

◇感想:AIにロボットの身体を与えることで人間以上の知識を持ったロボットが生まれることが予想される。AIが人間の代わりに仕事をしたり、兵器として使われる可能性もあるので怖く感じる。自分のスキルも向上させていきたいと思った。

●吉田星那さん(下館第一高卒)

◇感想:生成AIに、人間と同じように目と耳と触覚を搭載するとの記事であり進歩が著しいと思った。AIが知的好奇心から情報を取捨する可能性があるということにも驚いた。これからのAIがどのように進化していくのが楽しみである。

ITから
創造した
未来へ